

自治体 あいちの仲間

発行所 自治労連愛知県本部 名古屋市北区柳原三丁目7番8号
U R L http://www.jaichi.jp TEL 052 916-2251
Eメール info@jaichi.jp FAX 052 916-2308

2007 4.10
No. 941

発行責任者 梅野敏基 定価 10円
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

働く者の団結で生活と権利を守り、
平和と民主主義、中立の日本をめざそう

第78回愛知県中央メーデー

5月1日(火) 白川公園
午前10時開会 名古屋科学館前



名古屋市職労病院支部が4月3日に組合歓迎会、楽しくおしゃべりや食事をしました

サクサク 新規採用者を組合へ

席が近い 「二つの近い組合員」で

年齢が近い 声かけて100%加入

県内各組合は、新規採用職員への組織化をめざし奮闘しています。4月2日、初めての出勤日に新規職員に声をかけることがもつとも重要であり、この時を逃すと組合加入は難しくなる。組合総出で加入を訴えています。朝ヒラでの声かけ、昼食をとりながらの懇談などで、港職労、幸田町職労、名古屋市職労では東市民・城北・城西・守山市民病院、東区・熱田区・天白区役所などで100%の組織化が進んでいます。犬山市職労、岩倉市職労はあと一人で全員加入となります。

員に対して、席が近い・年齢が近いの「二つの近い組合員」が声をかけ誘うことを決め、職場の先輩が加入を訴えた結果この成果が得られました。

組合加入の訴えとともに、歓迎会のお誘いなども含めて誰でもが楽しめる、話し相手を作ることができ、安心して働けるよう人と人とのつながりができる催し物を知らせ新組合員の獲得がなされています。

引き続き、4月の早い時期に組合加入を呼びかける取り組みを進め、強く大きい組合を実現していきます。



岩倉市職組合歓迎会

組合説明会！
歓迎会開き
加入者広がる

岩倉市職

3月27日(火)18:00から岩倉市にある「シーナ」にて新入職員歓迎会を開きました。参加者33人、新入職員10人が参加しました。4日までに一人を残して全員が組合加入。



豊橋市職労、昼休み組合説明会

3月25日午前能登半島を中心として起きた強い地震は、石川県輪島、七尾両市と穴水町で震度6強の揺れを記録。1人死亡、けが170人、全半壊144件、2000人以上が避難するという大きな被害をもたらしました。地震発生から3日目の3月27日、自治労連・東海北信ブロック柳執行委員が、現地調査に入り次の報告をしてきました。



輪島市内の各所で民家が崩壊しています

「被害の大きい輪島市内に向け金沢から入った。交通手段は、のど鉄道などが災害で運休しており自家用車で移動。しかし、能登有料道も各所で崩壊し、輪島よりずっと手前の柳田インターで通行止めになっていく。一般道も多くの箇所が崩壊、崖崩れなどで通行止

めになっており、迂回を強いられる。志賀町に入ると黒い屋根瓦にブルーシートがかげられ被災の実態が目につく。ブロック塀はいたるところで崩壊、横倒しになって道路をふさいでいる。門前町に入ると突然大きな民家がぺしゃんこつぶれていた。あまりの大規模な被害に近づくのもためらった。遠くの集落はブルーシートで一面が覆われている状況で、広範囲に被害があるのを目のあたりにする。海岸沿いでは自衛隊が土のう作りをしている。道は、マンホールだけが突き出て、道路が陥没している。そこを舗装・修理している道路工事の人たちを横目で見ながら通り過ぎる。歩道は上下・左右にうねり陥没して歩いて歩ける状況でな

い。こんな風景が輪島市内いたるところで見られた。市役所に入り、さっそくボランティア窓口で受入相談をしたが、具体的な対応はできないでいる。民主団体の災害対策本部に入り、支援の相談をした。避難所での支援とともに高齢化率の高いこの地域では高齢者世帯への相談活動なども重要であると感じる。

尚、現在組合では次の支援を行っています。

大きな被害を目的の当たりに 高齢者世帯、独居世帯手厚く

能登半島地震
現地ルポ
柳執行委員

自治労連愛知県本部は被災地の救援・復興と被災者、被災組合員への義援金募金にとりくみます。

< 募金振込先 >
東海労働金庫 名古屋北支店
普通 1874711
自治労連愛知県本部カンパ会計

世界中に平和の声を届けよう

豊橋市職労 昼休み平和集会

3020人参加開戦4年目



市役所前の市民広場に9の人数

3月20日(火)に、「第5回3・20市職労昼休み平和集会」を開催しました。参加者は全部で120人。中日新聞や東愛知、東日新聞が取材にきました。集会では、健康分会の瀧さん、安全生活分会の矢野さん、文化分会の今泉さんの3人が、「戦争反対！イラクからアメリカ・日本の自衛隊は、速やかな撤退を！」のねがいを込めた日本語・中国語・英語の3カ国語で、憲法9条を日本国憲法は世界の宝だという想いを込めながら読みました。その後、憲法9条をかたどる人文字を、ライトグリーンのパネルで90人で行った。「憲法9条の平和の心を、世界に届けよう」と全員でコールしました。

また今年も、組合員さんから平和のメッセージを募ったところ1000人のメッセージが寄せられました。「戦争反対！みんなが笑顔で暮らせる世界をつくらう！憲法を必ず守る！」など熱い思いが込められたメッセージが寄せられました。

日本国憲法が60年間日本にあつたからこそ、日本は戦争で人を殺さなかったし、殺されなかった。この憲法が変えられてしまうと、戦争への足音が大きくなってくる、そんなことがあつてはいけない、みんなで平和をねがい、憲法改悪阻止につながる運動をしていくことを改めて確認した集会となりました。

また今年も、組合員さんから平和のメッセージを募ったところ1000人のメッセージが寄せられました。「戦争反対！みんなが笑顔で暮らせる世界をつくらう！憲法を必ず守る！」など熱い思いが込められたメッセージが寄せられました。

東三河くらしと自治 研究所結成めざし、準備中！

格差と貧困の広がりの中、住民の暮らしはいつそう悪化しています。こうした中、自治体はどのような仕事を行うべきか、住民のための行政はどうあるべきかという地方自治研究活動が、いっそう重要になっていきます。愛知・名古屋には、東海自治体問題研究所があります。東海三県で一カ所では間に合いません。そ

ここで、東三河地域でも「研究所」を作ろうと準備を進めています。昨年、11月18日に、愛知大学の宮入先生はじめ、大学の先生や豊橋市職労の共催で行った「市民シンポジウム」で、「東三河くらしと自治研究所」設立のため、世話人を募集しました。大学の先生、医療関係者、年金者組合、農業関係者など

多彩な方々が集まり、準備を進めています。「東三河5病院は、医師と看護師不足で深刻な事態になっている。精神疾患と目の病気がある患者さんは、浜松でしか受け入れが出来ない。地域医療の発展を考えていきたい。」「設楽ダムが本当に必要か？ムダな開発だ。」「地方分権と云いながら、中央集権が強まっているのではないか。東三河市構想など、合併は問題だと思つた。」「年金や介護の問題は深刻。」「東三河の農業も今のままでは生き残れない。」「言い放して、方向付けが出来るような研究

多彩な方々が集まり、準備を進めています。「東三河5病院は、医師と看護師不足で深刻な事態になっている。精神疾患と目の病気がある患者さんは、浜松でしか受け入れが出来ない。地域医療の発展を考えていきたい。」「設楽ダムが本当に必要か？ムダな開発だ。」「地方分権と云いながら、中央集権が強まっているのではないか。東三河市構想など、合併は問題だと思つた。」「年金や介護の問題は深刻。」「東三河の農業も今のままでは生き残れない。」「言い放して、方向付けが出来るような研究

2007年勤労者通信大学案内

科学的な理論と憲法を学び 生きる力をつけよう

基礎コース(科学的社会主義の基礎的理論を学びます)

2007年4月～2008年2月

新入学 20000円 再入学17000円

憲法特別コース(憲法をいかした日本をめざしあなたも憲法の語り部に)

2007年4月～2008年2月

受講料 8000円

(お申し込みは組合事務所または愛知県本部へ)

所にしたい」など、さまざまな声が出されています。9月頃に、「東三河くらしと自治研究所」を設立めざして取り組みを進めていきます。

職場の声

今、悩まされています。鼻水、目のかゆみ、朝起きると始まります。つらい。(本田真由美・名古屋市職労) 最近、異動の内示がありました。4月からの給料表がどうなっていくのかが話題になっています。(加藤道代・名古屋市職労) 3月で退職します。35年長いようでも短かった歳月でした。大きなミスもなく大病もせず自分では満足です。後輩の皆様、仕事に対する意欲を保持し、心と体が健康で

ある公務員であつてくださ(夏目公子・豊橋市職労) 仕事を始めて今年で3年目。寒さのせいかもしれませんが、花を見ることができず、早く咲いてほしいなと思つています。入園式の日までに咲いてくれることを期待しています(立松直子・春日井市職労) 異動の時期で何となく落ち着きません。花見に行きたいと思つてい

第33回東海自治体学校 案内

テーマ「くらしと地域の中に憲法を生かす

- 私たちの提案 -」

日時 5月20日(日) 受付9:30 開会10:00

会場 愛知県勤労会館(つるまいプラザ)

(JR・地下鉄 鶴舞下車徒歩5分)

資料代 1300円(障害者・年金者・学生1000円)

(県本部負担)

豊橋市職労の2万8千枚市民アンケートの報告もあります

東海自治体学校は、みんなが生徒で、みんなが先生という、住民・自治体職員・民間労働者・市民団体・NPO関係者・研究者・議会関係者などが、よりよい暮らし・地域・自治体づくりをめざして集う、誰でも参加できる学校です。

今年のテーマは、「くらしと地域の中に憲法を生かす- 私たちの提案 -」市場経済主義、「構造改革」路線が作り出している格差や社会的矛盾は深刻なものとなっています。各分野・地域の現状を交流し、憲法を生かす「私たちの提案」を出し合いながら討論しましょう。あなたのご参加をお待ちしています。

基調講演 午後は講座・分科会
マスコミから見える日本の現状・矛盾
それを正す視座をどこに置くべきか

講師 山田 哲夫 さん

(東京新聞社・中日新聞東京本社 論説主幹)